

## 第 56 回 評 議 員 会 議 事 録

1. 日 時 2018 年 9 月 18 日 (火) 13 時 30 分～16 時 00 分
2. 場 所 原子力発電環境整備機構 12 階 大会議室
3. 出席者 大江俊昭、久住静代、崎田裕子、高橋恭平、田中裕子、長辻象平、  
中村多美子、西垣誠、東原紘道、山地憲治 各評議員

評議員会運営規程第 6 条に基づく出席：

近藤駿介理事長、中村稔専務理事、梅木博之理事、伊藤眞一理事、  
宇田剛理事、上野透監事、鳥井弘之監事

電気事業連合会 清水成信専務理事

経済産業省資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課 那須良課長

(「報告 56-1 2017 事業年度評価・提言への対応表」の報告から参加)

本日の評議員会の評議員出席者は 10 名であった。評議員会を構成する評議員 (14 名) の過半数の出席があり、定款第 20 条第 6 項の開催、議決を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は 山地評議員、長辻評議員を議事録署名人に指名した。

### 4. 配布資料

議案 56-1 役員の選任について(案)

議案 56-1 評価委員会の委員選任について(案)

報告 56-1 2017 事業年度評価・提言への対応について

報告 56-1-1 2017(平成 29)事業年度評価・提言への対応表(対話活動)

報告 56-1-1 別紙 2018 年度の対話活動に関する評議員会評価目標(案)について

報告 56-1-2 2017(平成 29)事業年度評価・提言への対応表(技術開発)

報告 56-1-3 2017(平成 29)事業年度評価・提言への対応表(組織運営)

報告 56-2 対話型全国説明会の実施結果と今後の対応

報告 56-3 包括的技術報告書(レビュー版)「わが国における安全な地層処分の実現性  
-サイト選定に向けた準備としてのセーフティケースの構築-」の公表について

報告 56-4 評議員会の提言を踏まえた再発防止策等の取組状況

報告 56-5 機構業務に関連する最近の状況

## 5. 議 事

### (1) 審議事項

#### ① 役員の選任について

事務局から議案 56-1「役員の選任について（案）」により以下の理事候補者の選任理由等の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

[ 理事 紀平浩司 任期 平成 30 年 10 月 1 日～平成 32 年 6 月 30 日 ]

(主な意見等)

(評議員)

役員選任についてご意見・ご質問はないか。特にご意見等がなければご承認をいただきたいと思うが、本議案は原案のとおりとしてよろしいか。

<異議なし>

(NUMO)

本議案について原案のとおりご承認いただき感謝申し上げます。速やかに経済産業大臣への認可申請を行い、10月1日からの任期開始に備えることといたしたい。なお、役員の選任は経済産業大臣の認可をもって効力を生じるものであるため、それまでの間、情報の取扱いにはご注意くださいようお願いいたします。

#### ② 評価委員会の委員選任について

事務局から議案 56-2「評価委員会の委員選任について（案）」により以下の評議員以外の評価委員候補者の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

[ 対話活動評価委員会 八木絵香  
技術開発評価委員会 佐藤正知、高橋正樹、新堀雄一 ]

(主な意見等)

(評議員)

皆さまのご意見・ご質問をいただく前に、まずは 2017 年度の評価委員長であるご兩名からご意見を伺いたい。

(評議員)

対話活動評価委員会の委員候補である八木さんは、これまでもしっかりとしたご意見、ご見識をもって参加いただいております。提案のとおりで良いと考える。

(評議員)

技術開発評価委員会の委員候補である3名の方は、非常にしっかりとしたご意見をお持ちであり、技術部職員との対応状況からも適任と考える。

(評議員)

両評価委員長以外の皆さまはどうか。特にご意見、ご質問等がなければご承認をいただきたいが、評議員以外の評価委員については原案のとおりとしてよろしいか。  
<異議なし>

## (2) 報告事項

### ①2017(平成29)事業年度評価・提言への対応表(対話活動)

事務局から報告56-1-1「2017(平成29)事業年度評価・提言への対応表(対話活動)」及び報告56-1-1別紙「2018年度の対話活動に関する評議員会評価目標(案)について」により評議員会による評価・提言への対応状況及び2018年度の目標設定に関する考え方が報告された。

(主な意見等)

(評議員)

報告56-1-1別紙の対話活動の目標設定と条件について補足したい。事前にNUMOから相談を受けていたが、昨年度からの大きな変更箇所は三つである。一つ目は対話型全国説明会で、これまではアンケートで項目ごとの数値を説明会前・後で計測していたが、もっとシンプルに理解度や印象など大きな括りでしっかり伺いながら状況を見ていくことに変更した。これは、評議員会の提言を踏まえた結果である。二つ目は、「前回の3分野の目標設定には無理があり、4分野に分けるべき」という提言に対応いただいたことで、地域における対話活動(対話型全国説明会)、地域学習支援、メディアによる全国情報発信、次世代への情報発信の四つとしてバランスが良くなったと思う。三つ目は、前回の地域における対話活動の定性的な目標に「科学的特性マップに関する情報発信」を挙げていたが、今回は「文献調査についてのご理解を深めていただくための対話活動の推進」としており、1年進んだと感じている。この三つが昨年度からの大きな変更で、うち二つは評議員会からの提言をかなり反映していただいた。この中で対話活動の評価がきちんとできたら良いのではないかと。いろいろなご意見をいただき更に良いものにできれば有難い。

(NUMO)

科学的特性マップについてはアンケート等からもそれなりのご理解を得られていると考えるが、文献調査に対する理解度が必ずしも十分でなく、文献調査をすればそ

のまま処分場に決定されてしまうという懸念をお持ちの方が多いため、ご理解いただくための活動が必要である。今回の対話型説明会の資料もそういった要素をかなり織り込んで作成している。加えて、地域との対話の場に関してもイメージを持ってもらうため、海外の事例を入れて地域の方に考えていただくこととしている。

(評議員)

科学的特性マップをベースとして活用した対話活動は大切であるが、地域における対話活動の目標に文献調査に対する理解度を挙げたことは、次の段階に視点を向けており、この事業にとって非常に重要なことなので肯定的に捉えたい。

(評議員)

ジオ・ミライ号の出展ができていない都道府県は何県あるのか。また、その理由は先方からの了解が得られないことによるものか、それともNUMO側の事情か。

(NUMO)

ジオ・ミライ号の出展ができていない県は、47都道府県中で4県である。ジオ・ミライ号の稼働率自体に変化はないが、今まで訪問したところから「また来て欲しい」という要望も多く、そういったところには再度訪問している。今後は、これまで出展していない県に加えて、できるだけグリーン沿岸部で行うべく、科学技術館やイベント会場のある場所を探している。また、先方のご都合により出展できていないところはそう多くない。

(評議員)

訪問できていない県の中に、先方の了解が得られないものもあるのか。

(NUMO)

若干ではあるが存在する。

(評議員)

すべての県で出展できることが望ましい。

(NUMO)

先方との関わりで決まってくることはあるが、できるだけ出展させていただけるよう調整して参りたい。

(評議員)

報告 56-1-1 別紙の定性的目標と定量的目標にある「調査協力する地域や住民に対する国民的なリスク形成」と「地域において地層処分事業を我が事として考えていただく」という項目についてお聞きしたい。いずれもアンケートの回答項目だが、他の項目と比較して、どのような回答があればリスクが形成された、あるいは我が事として考えていただけたと言えるのか評価が難しい項目と考える。両項目を定量的にどう計測するのかについては、対話型全国説明会の中での回答指標では他の項目と同様に計測するようであるが、各アンケート項目の回答の中の肯定的評価が50%以上であれば達成できたと考えるのか。具体的なイメージが湧きにくいいため、ご説明いただきたい。

(NUMO)

対話型全国説明会の中で、地域共生についてご発言いただくような時間割を組みたいと考えており、そこでの反応を見ていきたい。説明会第2部のグループ討議時間を長く設定して、その中で「政策」や「安全性」などと区切りを持ちながら「地域共生」についてもご意見をいただくこととしている。定量的に言えるかどうかは難しいが、アンケートに共生や地域振興の項目もあり、これまでも比較的賛成率が高い。具体的に各地域でどのようなことをやっていくのかについては地域特有のものがあり、現段階では一般論的な説明しかできないが、よく出てくるNIMBY、つまり総論賛成各論反対ではなく、受け入れていただいた地域に対して国民的な総意として感謝の念を持っていただくことが重要であると訴求をして参りたい。

(評議員)

中長期的な理解の基礎作り（次世代層）について申し上げたい。我が国の一般廃棄物の分別回収の理解獲得は、小学校で親より先に子どもに理解してもらう手法で成功している。エネルギー問題全般について、次世代層に教育の一環として説明する機会を設けることは可能と考えるので、積極的に次世代教育の現場に入ってほしい。子どもたちが10年、20年後に理解していたらと考えると、小学校の3年生から4年生くらいがちょうど良いと思う。どこか1箇所では始めることができれば毎年新しく入ってくる子どもたちに教育可能な仕組みが構築可能ではないか。エネルギーを使えばゴミが発生するが、それをどうすれば良いかというところをもっていくことができれば、これは非常に効率的と考えるがいかがか。

(NUMO)

小・中学生向けの基本教材、副読本を作成して、現場の先生方との関係を築き、継続的に授業を実施してもらうようお願いしている。しかし、全体の中ではどうしても数に限りがあり、国のエネルギーに関する授業の中で地層処分だけを取り上げて

もらうことは難しいため、このようなやり方で教育の場を広げていくことが現状で可能な範囲ではないかと考える。

(評議員)

報告 56-1-1 別紙の目標設定について、定性的なところから定量的なところに踏み出したことは大きく評価するが、アンケートの母数も異なるため、前回と単純に比較して喜ぶといったものではない。数値目標の設定自体は反対しないが、「今回は目標をクリアした」ということよりも、どれだけ質の向上があったかのほうが大切である。分析の結果は非常に重要で、本日の説明からは自分たちの中で咀嚼している印象があり大変良かった。一方で、ジオ・ミライ号や出前授業はどのように実施したのか。出前授業やコンテンツはホームページからチェックしているものの、生きた情報として入って来ないため、関心を引くようなことをやっているのかどうか分からない。ジオ・ミライ号は導入初期に見たが、面白みに欠けるという印象を受けた。その後に改善されているとは思いますが、何回実施したという数字よりも、どのような改善があったのかを聞かせてもらいたい。

(NUMO)

私共も数字だけでなく中身が大切だと考えているため、ご指摘を踏まえて事業運営を進めて参りたい。

(評議員)

来場された方々の評判はどうか。

(NUMO)

ジオ・ミライ号の展示に来場される方は主として親子連れで、そうした方が集まりやすい場所で行っていることもあり、非常に多くの方がお越しになられるが、お帰りになる際の様子では概ね満足いただけたものと考えている。展示内容は初期との大きな変更はなく 3D映像とベントナイトの実験で水が漏れないことを体験していただくことが中心であるが、もう少し工夫ができないか検討したい。

(NUMO)

経済産業省子どもデーでは、ジオ・ミライ号の傍らで日本原子力研究開発機構の職員の方による岩石の説明も行われた。安山岩や玄武岩の実物を持ち込み、日本の地層や日本列島の成り立ちといった説明があり、子どもたちが夏休みの自由研究の題材を得て喜んで帰っていくといった効果も出ている。

②2017(平成 29)事業年度評価・提言への対応表 (技術開発)

事務局から報告 56-1-2「2017(平成 29)事業年度評価・提言への対応表 (技術開発)」により評議員会による評価・提言への対応状況が報告された。

(主な意見等)

(評議員)

解析コードの内製化の説明で、NUMO内でより複雑な解析ができるようハード面での整備について検討を進めているとの説明があった。最近では、並列計算をするにしても、クラウドコンピューティングにより自らコンピュータを持つことが重要ではなくなってきているという認識があるが、具体的にはどのようなことを考えているのか。

(NUMO)

ご指摘のとおりクラウドを使うことも視野に入れているが、現時点で計算に使える専用機器の台数が非常に限られており、複数の計算を並行して進めようとする待ち時間が生じて極めて効率の悪い状況下にある。今のところはそれほど大きな負荷のかからない計算コードを使っているが、もう少し負荷が大きい状況では、能力の高い機器が2台から3台程度必要になるものと考えている。一番効果的な方法でこれに取り組んでいきたいとの趣旨である。

(評議員)

最近、未曾有とか想定外といわれる災害が次々に起こっており、素人の私からすれば、将来が非常に不安な気持ちに陥っている。多くの人が同じような恐怖心を抱いて地層処分に反対する気持ちになるのではないかと懸念する。このような動きの歯止めになるものは何かというと、やはり技術に対する信頼しかないような気がしている。私に対話型全国説明会などで見聞きし考えるのは、技術者が分かり易い言葉で情報をきちんと与えてくれることが安心感に繋がり信頼を高めて地層処分の推進力になるということである。このような時期だからこそ、対話型全国説明会を開催する際には、まず、この問題から入っていただきたい。関東でも北海道でもどこに行っても同じような切り口とするのではなく、「この問題はこういう問題と繋がっているのです」というように、住民の方の不安感などその場の空気を読んで、そこに住んでいる方々がどのような思いで参加するのかということを徹底的に考えたい。そのときに一番必要なのは単なるコミュニケーション能力だけではなくて、つたない語り口であっても技術者が分かりやすい言葉で説明する姿勢ではないかと考える。

(NUMO)

重要なお指摘をいただき感謝申し上げます。ご指摘のように、最近、科学技術に関する信頼が一般的に下がっており、例えば、最近いろいろな方と話していると「過去において、科学技術が万能とは言わずとも強い基盤を持っていた頃に開発された将来10万年の評価の仕方等が、未だに成立するのか自信がない」とのご発言も伺っている。ただ、この地層処分の将来の安全性の問題はそもそも実験で実証できるものではなく、苦労を重ね国際的な英知を集めて技術的体系を作ってきたという背景がある。そのような情報もきちんと含めて技術を伝えることができれば、先ほどのご指摘にも少しは応えられるのではないかと考えるため、自分が今やっていることの背景としての枠組みがどういうものかについて技術部全員が認識したうえで、それぞれの技術の説明ができるような教育プログラム作りを検討したい。

(評議員)

先ほどのご指摘に関して申し上げたい。技術屋としては、「災害など様々なことが起きるから地上に置いておくことが非常に危険なのですよ、ですから少しでも深部に持ち込んでおく、そうしたら、地震が来ても地層はとても安定的なところで影響がほとんど出ていませんよ」ということを、これからどんどん社会に発信していく必要がある。千年とか、1万年、10万年後に本当に大丈夫なのかということは、地質学や地球学といった専門家の方々にお力添えをいただいて、「それくらい大丈夫ですよ」という説明ができるのではないかと考えている。実際に、名古屋万博のときにはシベリアの凍土から発見されたマンモスの展示があったが、地上の気候がいろいろと変化しても内部ではそのくらい安定的なところがあるということ。そのような場所が日本にあるのかと技術的に聞かれると非常に答えるのが難しいのだが、日本には火山があり地震があつて本当にプレートの真ん中で大丈夫なのかという疑問に対して国が科学的特性マップを公表した。科学的特性マップは日本の地質関係の科学者の英知を絞って国民に提示していただいたものだと思っているので、その中で地層処分を行うという形で訴えていくことが今年度の出発点であったと理解している。

(評議員)

先ほどNUMOからの回答で「実験で実証できる話ではない」とのことであり、「国際的英知を集めて」というのは非常に重要である。報告56-1-2の国際的なネットワーク作りについては、既に経験的にかなり進んでいる国もあるとのことなので、NUMOとして年単位での派遣を検討して国際的ネットワークの強化を図るべきと考える。それにより、こちらではシミュレーションでやってきたことが、現実に進めている国ではどのような課題を抱えているのかということ把握できると考える。

(NUMO)

ご指摘のように年単位の派遣により成果が上がるものとするため、順次、期間を延長するように計画して参りたい。

(評議員)

技術開発の評価コメントとその対応、関連するご意見やご質問を伺っていて、技術開発についても今まで研究をしていたものが具体化していくという段階にあり、その際にどれだけ組織を強くするのか、強だけでなく柔軟にしていって今までのいろいろな揺らぎを受け止めていくのかということとを技術開発評価委員の皆さんも捉えておられるのだという印象を持った。そうした意味で、人間力のアップと組織力のアップを皆さん重々お考えだとは思いますが、対話活動評価委員としては、今回の評価と対応を拝見していると、大きな変化のときを作るようにというお話であると受け止めた次第である。頑張っていたきたい。

(評議員)

私は技術開発の評価に参加したが、以下は個人としてのコメントである。NUMOの技術者は、いずれ現場に入って、いろいろな関係者とやりとりを繰り返しながら、たくさんの業務をこなさなければならない。この観点でまず、報告56-1-2の「概要調査計画策定に関する机上演習」が自主的に出されたことに大変期待している。このやり方は、警察・消防をはじめ、およそ実動する組織に必須の定石と言えるものであるが、NUMOでも必要で、効果も大きいと思われる。仮想的とはいえ仲間うちでの合議を通じて具体的な課題や対応策を探る場になるので、経験が浅い参加者でも、経験を重ねるのに応じて、アイデアを出して議論し合うことができるようになる。この関与的な場で得た知見は本番でも使える。

次に、先ほどの評議員のご発言を補足したい。今回のような地震あるいは気象災害が生じると、人々の間で不安が高まる。NUMOの対話活動にも影を落とすのはもつともである。出された不安に対しては、逐一、丁寧に説明をしなければならない。このような地震あるいは気象災害も地層処分事業と無関係ではない。いずれ、建設時や操業時の安全として詳細に論じられるだろう。現在の処分システムの設計思想を実行すればこれらの災害の危険は小さいと見込まれるが、だからと言って、将来の本格論議の時まで待って、とはいかない。むしろ人々にホットな関心がある時に、安全な所以をきちんと説明する、それも大災害の度に煩をいとわず告げるべきだと考える。

また、先ほど大型計算の能力に関する議論があったが、外国の成果を見ると、計算量がどんどん増えている。大規模なシミュレーションを多数回行う。個人的には、計算量の膨張は要注意と考えているが、地下の、観測困難な微細な場の超長期のふ

るまいという、極度に不確実性の高い議論をやる以上、巨大な計算が避けられないかもしれない。コンピュータ資源をどう調達すればよいかという検討は必要だと思う。併せてクラウド化などによるコスト圧縮も必要であるので、NUMOの検討を待ちたい。

最後に包括的技術報告書について。評価がその公表より前であったため、報告書の中身に当たることができず、評議員会や技術報告会などで得た情報を使ってできる範囲の評価しかできていない。幸い、間もなく公表されるとのことなので、我々の評価の適否を確認したい。さらに来年度は、個々の技術開発業務を包括的技術報告書が示す全体像と突き合わせることで、NUMOの技術力の奥行きも描き出せるのではないかと期待している。

### ③2017(平成 29)事業年度評価・提言への対応表 (組織運営)

事務局から報告 56-1-3「2017(平成 29)事業年度評価・提言への対応表(組織運営)」により評議員会による評価・提言への対応状況が報告された。

(主な意見等)

(評議員)

全体の内容に関しては、評議員会からの提言をしっかりと受け止めて取り組みつつあるということで、このまま進めていただければと思う。これまで評議員会では予算、決算や財務、経理に関する提言はしていないが、それは理事会のほうでしっかり管理していただくということによろしいか。この組織は、今後、現地に入るなどいろいろな動きが生じた場合に、予算規模が桁違いに増えていくような性格を有している。組織としてそのところをしっかりとみていくことが必要だと思う。

(NUMO)

事業計画や予算、決算については、理事会で審議のうえ決議を行い、評議員会に報告させていただいており、将来の活動進展に伴う予算の見込み、あるいは広報、対話活動に関する予算の膨らみなどを勘案しながら予算を立てて、適切な規模で経済産業大臣の認可を得て実施している。

(評議員)

状況によっては、必要に応じて評議員会の場での報告も考えてもらいたい。

(評議員)

対話活動評価委員会からいただいた「SABC評価基準が分かりにくい」との意見に関して申し上げたい。現行基準導入時の議論の際にはCの定義が「目標設定から遠い」となっており「これでは表現が強すぎる」という意見があったと記憶してい

るが、私が思うにNUMOの場合はCにDを含んでいるわけであり、その意味ではCに関して「目標設定から遠い」という表現が強すぎるということはないと考える。そうでなければ、Dに該当する結果が生じた場合にどうするのかということになる。また、現行評価基準では用意されていないDを加えてS A B C DとすればBがちょうど真ん中となって評価結果が正規分布に従いやすくなる。本来であれば、まずまずやっているというのがBである。NUMOの場合は、何故かDがなくて正規分布が成り立たず、バランスが取り難くなっている。その意味からは、Dを置けばDが目標設定から遠いとなり、Cはもう少し頑張らなければいけないということになって落ち着くと思われる。評価の継続性というのは大事なことであり、Dを付け加えるべきかどうかを判断するためのラストチャンスになっていると思われるが、いかがか。

(NUMO)

特に対話活動の評価の場で以前から話があって、Bが標準ではないかという議論から始まっている。対話活動評価委員長とも相談をさせていただき、AとBのところで明らかに目標を超えたらAであると、そうでなければBということで、ご指摘のあったCとDについてあまり議論にならなかったと記憶している。実際には、本日も意見をいただいているように提言の中身のところをどう業務に活かして対応していくかということが一番大切であり、A B C Dも大切ではあるものの、とにかく目標を高く持ってしっかりやっていき、それに外れていればC評価とすることにより、ほぼ合格点に近いとなればB評価、明らかに目標を超えていればA評価ということで評価委員会の皆さまと調整をさせていただいた経緯がある。

(評議員)

私は、正規分布のためにもDは置いたほうが良いと考えるが、NUMO独自のシステムの評価ではDは置かないということか。

(NUMO)

そのとおりである。

(評議員)

技術開発のほうは少し評価が違うことから、これでDを持ってくるとますます混乱すると思われる。一方、対話活動のほうは定性的な部分が多いため評価が非常に難しいというのは理解できる。ご指摘のとおりDがあればBが中庸というのが受け入れ易いと思うが、その場合はCとDの間の線引きをどうするのかという定義がかなり難しくなる。そうした議論を経て現行基準はS A B Cの4段階とし、むしろBとCの区分けをはっきりさせるということで今までやってきている。

(NUMO)

対話活動評価委員長ともご相談させていただきたい。

(評議員)

今後、SABCの評価ランクを変えていくのであれば、しっかりと話し合わなければならない。私個人の意見としては、技術開発と対話活動で評価基準を変えないほうが良いと考えている。そうしないと同じ組織の中での評価が見え難いと感じている。現行のSABC基準に関する私の理解としては、Sはスペシャルでとてもすばらしく特別の評価。残りのABCが普通の評価で、しっかりやっているのがBで、良くやっているのがA、これでは駄目で改善しなければいけないというのがCという整理を行うと非常に分かりやすいと考えており、この区分で一応は落ち着いているのではないかという意見である。

(評議員)

今までの経緯を含めてもう一度検討してはどうか。

(評議員)

人材育成に関して、機構の人材は限られているとのことだが、どこかの地域で手が挙げたときに、外部を含めてそれに対応できるだけの人材が集められるか。現在の社会状況であればまだ大丈夫である。いろいろな土木建設工事で、リニア新幹線はあと7年間、大阪までであれば10年間、北海道新幹線のトンネル工事も併せてそのくらいまで仕事をやれる人材が存在するものの、それらの工事が終わった10年後には外部に人材がほとんどいなくなる。この話は、いつも評議員会でお伝えしているが、そうした人材をどうやって育てていくのか。手が挙げたときに、外部にも人材がない状況をリスクととらえて、今後検討していただければと思う。

(NUMO)

後ほど、報告 56-4 評議員会の提言を踏まえた再発防止策の取組状況のご報告の際に説明させていただきたい。

(評議員)

リスク管理室に2名の方を配置して活動をスタートしたが、現在までにリスクの検出は何件かあったのか。また、リスク管理室を設置して良かったという成果は出ているのか。

(NUMO)

本取り組みはリストアップ方式で実施しており、各担当から出された全てのリスクからリスクが顕在化した場合の重みや顕在化しそうかどうかの感度で分類を行い、一番重いものについては役員が直接評価するような仕組みとしている。

(NUMO)

理事長直属の組織として、第三者的な目で物を見ることによって、いわゆる兆候段階において「脆弱性があるんじゃないのか」という指摘ができるようになってきている。深く傷を負うことがないよう浅いうちに問題を指摘して、お互いが議論できるという機能の面から成果があると考えている。

#### ④対話型全国説明会の実施結果と今後の対応

事務局から報告 56-2「対話型全国説明会の実施結果と今後の対応」により本年5月10日から8月1日までの間に実施した対話型全国説明会の結果分析と今後の取り組みについて報告された。

(主な意見等)

(評議員)

NUMOから対話型全国説明会開催の連絡をもらってホームページを閲覧し、その際に地方新聞でとりあげてもらって認知度は上昇していると喜んでいるが、記事のタイトルが「核のゴミ」という表現で、これでは核物質(核兵器)を作ったゴミというイメージがあり、また広島や長崎を連想してしまっ産業廃棄物という印象が薄れてしまう。実際に会場に来ていただいた方はともかく、記事化が増加するほど一般の方から拒絶反応が出るのではないかと危惧している。何とか、そのような表現をやめてもらうことはできないか。

(NUMO)

役員で手分けして地方メディアを訪問する機会があるので、その際に念押しするようにしたい。また、報道グループも地方メディアとのつながりを持ちながら進めている。ご指摘のように「核のゴミ」という表現には悪い印象を持たれることも考えられるので、私共としてもそういった訴求は粘り強く取り組んで参りたい。

(評議員)

報告 56-2 に、これから地域共生等の情報を適宜追加し説明内容の高度化をはかる旨の記載がある。また、報告 56-1-1 別紙の定性目標と定量目標の表に、「調査協力する地域や住民に対する国民的なリスク形成」と「地域において地層処分事業を我が事として考えていただく」という目標記載があり、これらを今後NUMOが取

り組んでいく部分だと思う。地域共生に関する情報提供は、今後地域に入っていく中で重要になってくると思うが、リスペクト形成と言う表現には違和感がある。相手の心理状態を踏まえたコミュニケーションは大切であるが、相手の心理をどう変えるかということを目指にすることは非常に難しく、法律の世界ではあまり想定されていない。法的にロジカルな設定とはいえ、倫理とか道徳のような問題を目標や尺度に入れるのは法律家として違和感がある。すなわち、リスペクト形成を定性目標として掲げたときに何をもって成果を計るのか、そもそも、そのような目標を掲げて良いのか。また、我が事として考えていただくということについても、法的な表現で言えば、受益者と負担者に互換性がなく、不公平がある場合に、それをどう是正するのか、その是正はどのように正当化されるのかという問題として定立すべきではないか。情緒的な働きかけが重要な側面も否定できないが、それが過ぎると議論の混乱や社会的な紛争を招きかねない。社会的側面の問題として、もう少し理論的に丁寧に整理したうえで、社会や地域にアプローチを図っていくような試みが必要だと思う。

#### (NUMO)

情緒的な部分をどうつかむか、あるいはどうやって変えていくのかという問題は大変難しいが、まずは相手と会わなければ進まない部分だと考えている。対話型全国説明会などでお会いした方々とは少なからずそういった話ができていると思うが、最後は自治体の首長の方々の承諾が必要であるという現状があるため、そういった方々に事業の実施で何が起きるのか、経済や雇用においてどのようなプラス面があるのか、まだ個別の地域について言うことはできないが、興味をもっていただいた地域にお話しするということを考えており、できるだけそういった取組みを強化していきたい。また、リスペクト形成については、処分場の場所が決まったときに「何であの地域だけお金をもらって」という声が出てくるのが想定されるため、全国的な理解を進めていく取組みは重要である。海外でも同様の取組みは普通に行われていることであると、併せて説明していく予定である。

#### (評議員)

情緒的な目標設定の評価は難しいとのご意見はよく分かる。ただ、個人の印象では、日本では全般的にリスペクトの心がなくなってきており、特に科学技術に対するリスペクトが薄いのではないかと日々感じている。NUMOの科学技術に対するリスペクトを得ることも一つの方法であると考えてるので、明確に科学技術について説明することが重要だと考える。

(評議員)

ご指摘の国民的なリスペクトの形成についてであるが、単体で単語のみが出てくると確かに違和感はあるものの、対話活動の中では非常によく出てくる言葉である。探している処分場は1ヶ所であるにもかかわらず全国で対話活動を行うのは、全国の方々がこの課題を認識して関心を持ってくれる地域に感謝する気持ちというもの醸成できなければ、どこかの地域で手を挙げていただき、話し合いを深化させていくことができないからである。そういった意味で、全国で対話を行うことの意義として、将来関心を持ってくださる地域に敬意や感謝の気持ちを持つという話でずっとやってきている。そうした経緯が明確に伝わるような形にしてもらえることが重要かと思う。

(NUMO)

決して私共が説明の場でリスペクトを求めるということではなく、そうすることは社会貢献という意見があるがどう思うかと話題にすることにとどめている。ただし、アンケート調査の項目には常に入れていく。だから、そこには日本人の普通の感覚としてこんなことかなということが出てきているものと思う。これからどうするかだが、先ほどの評議員のご発言のとおりこの問題に取り組む人が集まるとそういった話題になるのはありがたいことだが、よく伺うということだと思う。一番大事なことは我々が受入れられるようなきちんとした発言をしていくということだと思う。絶えず反省しなければならない。

- ⑤包括的技術報告書(レビュー版)「わが国における安全な地層処分の実現性-サイト選定に向けた準備としてのセーフティケースの構築-」の公表について  
事務局から報告 56-3「包括的技術報告書(レビュー版)『わが国における安全な地層処分の実現性-サイト選定に向けた準備としてのセーフティケースの構築-』の公表について」によりこれまでの経緯と今後の見通し等が報告された。

(主な意見等)

(評議員)

精力的に発表していくことを予定しているとのことで歓迎すべきことだと思う。さらに要約した内容を学会誌に投稿することを検討していただきたい。100ページの要約書を読む人は稀である。専門家でもこれだけの物は読むだけでも大変なことなので、アピールとして是非それを検討していただきたい。

(NUMO)

ご意見をいただき感謝申し上げます。そのようにいたしたい。

⑥評議員会の提言を踏まえた再発防止策等の取組状況

事務局から報告 56-4 「評議員会の提言を踏まえた再発防止策等の取組状況」が報告された。

(主な意見等)

(評議員)

対話活動の改革については、若手を入れた対話活動改革チームを作り、そこからの提言を受けて改革に取り組んだとの報告を受けているが、その取組みに関する報告書のようなものはあるのか。

(NUMO)

若手を中心とした対話活動改革チームを設置して、そこからの提言を踏まえたアクションプランを策定・公表のうえ、活動を順次実施しているところである。本日はその内容を整理したものは添付していないが長期的に取り組むものと短期的に取り組むものを両方合わせて活動を実施している。詳細はお示しできないが7～8割は既に実施しているところである。

(NUMO)

対話活動改革チームから提言を出してもらい、それぞれの実施をどうするかについては更に検討して、できるものは実施している状況である。トータルとしての成果報告書としてまとめているかというご質問と思われるが、そういう段階には至っていない。

(評議員)

きちんとした報告書を求めているというよりは、ご説明があったように、出てきた提案が実践化されて内容がきちんとしていれば良いと思う。インターネット配信のように特徴的なものはよく分かるのだが、実際にはそうした特徴的なものと日々の対話力の強化といった、いろいろな要素が必要だと思ったため質問をさせてもらった次第。

(NUMO)

ファシリテーション能力を上げるといった取組みについては、日々の研修や実際の対話の場の反省を日々やっている中でPDCAを回しながら進めている。

(評議員)

対話活動改革の中間報告をしてもらいたい。

(NUMO)

対話活動アクションプランに対する取組みについては適宜確認している。まだ四半期しか終わっていないため、別の機会に改めて報告いたしたい。

(評議員)

人材育成については、包括的技術報告書の公表により今後の人材育成計画が明確になると理解して良いか。

(NUMO)

包括的技術報告書の経験を生かして、今年度中に今後必要となる技術職員の育成計画を立てることとしており、別の機会に改めて報告いたしたい。

⑥機構業務に関連する最近の状況について

事務局から報告 56-6「機構業務に関連する最近の状況について」が報告された。

(主な意見等)

特になし

(NUMO)

本日は貴重なご意見を賜りお礼申し上げます。評議員の皆さまには、引き続き事業運営へのご助言・ご指導を賜りたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

また、次回の評議員会は11月20日(火)の開催を予定しており、2019事業年度の事業計画策定の方向性についてご審議いただくこととしているため、よろしくお願いいたしたい。

以上

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は16時00分に閉会を宣言した。

上記議事の経過の要領及び結果を記録するため、本議事録を作成し、議長及び議長が指名した議事録署名人がこれに署名捺印する。

原子力発電環境整備機構

評議員会

議 長

高橋恭平



議事録署名人

山地憲治



議事録署名人

長辻象平

